

統計センターの役割・業務等の在り方に関する提言
(骨子素案 目次)

はじめに

現状と課題

- 1．統計センターの現状
 - (1) 統計センターの目的・業務・体制
 - (2) これまでの実績
- 2．統計行政を取り巻く課題
 - (1) 統計行政全体の課題
 - (2) 政府統計の質的向上を実現するための要素
 - (3) 行政改革の要請
 - (4) 統計行政の課題と行政改革の要請への対応
- 3．統計行政の課題への統計センターの貢献
 - (1) 統計センターの貢献可能性
 - (2) 統計センターにおいて実施することが期待される業務

課題の解決方策と留意事項

- 1．基本的な考え方
- 2．コアコンピタンスの明確化
- 3．外部リソースを活用した製表業務等の的確な実施
- 4．外部リソースの活用にあたっての留意点
- 5．業務・システムの改革
 - (1) 基幹業務システムの刷新
 - (2) 研究成果の活用等による業務の見直し

新たな組織の在り方

- 1．人材の確保、育成等の在り方
- 2．独立行政法人の見直しへの対応

統計センターの役割・業務等の在るべき姿 ～統計センターの将来像～

むすび

統計センターの役割・業務等の在り方に関する提言

(骨子素案)

はじめに

現状と課題

1. 統計センターの現状

(1) 統計センターの目的・業務・体制

統計センターの目的、業務、個別業務工程の概要、定員等について記述

(2) これまでの実績

これまで、大規模調査を含めた各種統計調査を組み合わせスケールメリットを生かし効率性を高めながら、正確・迅速・安定的な製表(集計)等を実施し、統計行政において重要な地位を占めてきたことについて記述

これまでの事業を通じて「厳格な情報管理能力」、「正確なデータの作成・集計能力」、「統計に関する専門性」、「組織的な品質管理能力」等を磨き、強みとしてきたことについて記述

2. 統計行政を取り巻く課題

(1) 統計行政全体の課題

統計制度改革検討委員会報告においては、「産業構造や調査環境の変化、統計情報の多様で高度な利用へのニーズの高まり、統計作成に係る各種リソースの制約等に直面し、経済社会の実態を充分的確に反映したデータを提供できるものとなっていない」等の指摘があるなど、現在、統計行政が直面している課題について記述

上記課題に対応し、政府統計の質的向上を実現するため、以下のような取組が必要とされていることを記述

- ・ 新たな統計(経済センサス、サービス産業動態統計等)の整備
 - ・ ビジネスフレームの整備、行政記録の活用
 - ・ 統計データの二次的利用
- 等

(2) 政府統計の質的向上を実現するための要素

(1) の取組には、「人的資源」「統計の専門技術」「適正な情報管理」「組織的な品質管理」といった要素が必要となることを記述

(3) 行政改革の要請

総人件費の抑制や民間開放・市場化テストなど、「簡素で効率的な小さな政府」の実現に向けた行政改革からの要請もあり、国の行政機関の定員を増加させることは困難である他、独立行政法人についても同様の取組みが求められていることを記述

(4) 統計行政の課題と行政改革の要請への対応

(1) と(3)の双方を満たすことが、統計行政の課題の解決方法であることを記述

3. 統計行政の課題への統計センターの貢献

(1) 統計センターの貢献可能性

1.(2) で示した統計センターの強みと2.(2)で示した要素とを比較し、統計センターには、政府統計の質的向上に貢献し得る能力・強みがあることを記述

他方、行政スリム化との両立が必要である以上、仮に統計センターが従来からの役割を果たしつつ新たな役割を担っていくとすれば、経営改革によって自らの組織・業務を効率化することが必要であることを記述

また、統計センターが、独法としての自律性や専門性を生かして効率化を進め、政府統計の質的向上に貢献することは、国の統計関係の各行政機関が直接かつ個別に同様の課題に取り組む場合よりも合理的な面があることを記述

以上の点を踏まえた結論として、統計センターは、自らの組織・業務を効率化し、政府統計の質的向上に貢献する役割を担っていくべきであることを記述

なお、以上と類似した考え方に基づくモデルケースとして、各府省共同利用型システムの管理・運用のスキームがあることを特記

(2) 統計センターにおいて実施することが期待される業務

2.(1) 及び3.(1)を受けて、今後、新たに担っていくことが期待される具体的業務として、以下のものがあることを記述

- ・ 各府省共同利用型システムの管理運営（センターが行うことが決定済）
（ビジネスフレーム、オンライン調査、統計提供・利用等の基盤整備）
- ・ 統計データの二次的利用
（データアーカイブ、匿名標本データ、オーダーメイド集計）
- ・ 統計処理の品質評価、コンサルティング
（統計の質の根幹を支える品質の管理・評価やこれを広めていくコンサルティング業務）

課題の解決方策と留意事項

1. 基本的な考え方

統計センターが 3.(2)の業務を行っていく上で必要となる組織・業務の効率化について、以下のような基本的考え方・戦略を記述

- ・ 従来の漸進的手法とは異なる新たな発想で効率化を進める
- ・ 統計センターの「コアコンピタンス」(組織として自ら保有すべき中核的な能力・強み)を明確化した上で、組織として自らの判断を必要とする企画業務や管理業務をはじめ、コアコンピタンスの維持・向上に関連の深い業務に常勤職員を重点的に配置
- ・ その他の業務については外部リソースを積極的に活用
- ・ 同時に、基幹業務システムの刷新などを通じた効率化を徹底
- ・ これらの推進に当たっては、統計制度改革等の進展の期間に対応する中期的な改革期間を設定して推進することを記述

2. コアコンピタンスの明確化

1(2)で述べた「厳格な情報管理能力」「正確なデータの作成・集計能力」「統計に関する専門性」「組織的な品質管理能力」等の、これまで統計センターが蓄積してきた強みは、

- ・ 政府統計に係るデータ作成・管理・提供に関する業務を遂行していく際に、もっとも重要な中核的能力と考えられること
- ・ 従来からの製表業務等は無条件のこと、(政府統計に係るデータ作成・管理・提供に関する業務という点で共通性を有する)今後新たに担っていく業務を遂行する上でも、もっとも重要な中核的能力であることを記述。

このような能力・強みは、統計センターにとって、いわゆる「コアコンピタンス(組織として自ら保有すべき中核的な能力・強み)」に相当するものであり、これに関連の深い業務には常勤職員を重点的に配置する。

3. 外部リソースを活用した製表業務等の的確な実施

これまでセンターが担ってきた製表業務等に関して、組織としての決定・判断を必要とする業務(企画・管理業務)をはじめとする「コアコンピタンスの維持・向上に関連の深い業務」に常勤職員を重点的に配置し、新たな調査の創設、調査環境の変化、調査手法の多様化、行政記録の活用への対応に向けて能力を一層向上させる必要があることについて記述

上記以外の業務については、外部リソースを積極的に活用することを記述

更に慎重な精査が必要であるが、現時点で、一定の条件の下で外部リソースを積極的に活用する分野について記述

(調査票の受付業務、調査票のデータ入力、符号格付の処理、システム保守・運用業務)

新たな業務(「各府省共同利用型システムの管理運営」、「統計データの二次的利用」、「統計処理の品質評価、コンサルティング」)については、業務内容を精査した上で、～で述べた考え方と同様の考え方で常勤職員の配置と外部リソースの活用を判断。

4. 外部リソースの活用にあたっての留意点

以下の点について留意事項を記述

国民、企業等の秘密を含む調査票の情報を扱う業務においては、調査対象者の不信を招かない厳格な管理が強く要請されること

市場に影響を与える公表前の調査結果に直接触れる業務においては、市場参加者の不信を招かない厳格な管理が強く要請されること

外部リソースの活用にあたっては、品質の維持向上と期限厳守を確保した上で、トータルコストが軽減されることが前提となること

実施業務への外部リソースの活用にあたっては、専門性・ノウハウを損なわないよう、職員の専門性等の維持・継承に向けた配慮が必要であること

外部リソース活用の手法等については、調査の特性、業務の種類、性格等を踏まえる必要があること

政府統計は後世に残る国民の共有財産であることから、確実に業務が実施できるよう業務仕様を詳細に定め、正確な統計データを作成できるようにする必要があること

5. 業務・システムの改革

(1) 基幹業務システムの刷新

基幹業務システムの刷新を行い、更に経費節減を行う必要があることを記述

(2) 研究成果の活用等による業務の見直し

業務自体について研究成果を活用するなどして様々な効率化努力を講じていく必要があることを記述

新たな組織の在り方

1. 人材の確保、育成等の在り方

【第4回の議論を踏まえて記述】

2. 独立行政法人の見直しへの対応

独立行政法人が置かれている状況を記述し、組織の在り方の検討にあたっては、行政改革の要請、組織の能力の維持・向上、人材育成、確保戦略と合わせ、総合的に検討することが必要であることを記述(留意事項についても記述)

統計センターの役割・業務等の在るべき姿 ～統計センターの将来像～

以下に掲げる事項を可能とする世界最高水準の統計作成・提供機関を目指すことについて記述

- ・ 正確で信頼できる統計を情報セキュリティを徹底しつつ迅速かつ安定的に作成
- ・ 多様なニーズに対応して、行政・国民に多角的に統計データを提供し、統計データの価値を最大化
- ・ 外部リソースを積極的かつ的確に使いこなすことなどによる効率的経営により肥大化を防ぎつつサービス向上を実現
- ・ 統計の高度な専門知識を有する意欲的な人的資源を十分に有する組織を形成し、技術的にも日本の統計を世界最高水準のものとするべく統計行政全体をサポート

等

むすび